

謝辞

本論文を作成するにあたり、多くの方々のご理解とご協力、多大なるご指導とご助言を頂きましたことを、心より御礼申し上げます。

私が心理学専攻の博士後期課程に入学するにあたり、体育・スポーツ心理学を研究領域としていた私をご理解下さった中部大学国際人間学研究科心理学専攻の先生方に感謝申し上げます。中でも、小塩真司先生（現早稲田大学文学学術院准教授）には、1年間指導教授として、研究活動の進め方から研究の方向性や研究方法について丁寧にご指導いただきました。その後も、論文の提出前には数度にわたりご助言を頂いたことに感謝申し上げます。ご指導いただいたことは、今後も研究活動を継続するにあたり、私の土台となり続けると思います。また、ご多忙の中、副指導教授をお引き受け下さった小川浩教授と吉住隆弘准教授からは、それぞれのご専門の立場から、研究を進めていく意義など研究内容が深まるようなご指導を頂くことができました。論文を書くにあたっての文章表現から、誤字脱字など細かな点までご指摘頂きました。その他にも、国際人間学研究科心理学専攻の先生方や大学院生からは、発表会の際にご質問やご指摘を下さり、新たな研究の視点や問題点も見出すことができました。貴重なお時間をかけていただいたことに感謝申し上げます。

そして、中部大学に着任されてから2年間指導教授として、ご指導いただきました速水敏彦教授には、力不足である私にも、丁寧に方向性を示して下さい、3年間で博士課程を修了するに至ることができました。感謝の言葉だけでは足りませんが、ご指導頂いたことを忘れずに今後の研究活動に活かし、少しずつでも恩返しをしていきたいと思えます。

最後に、博士課程に入学することや、研究を進めていく中で、ともに過ごす時間を割いていたことにも理解をし、協力し、応援してくれた家族にも感謝します。

2014年3月

西垣 景太